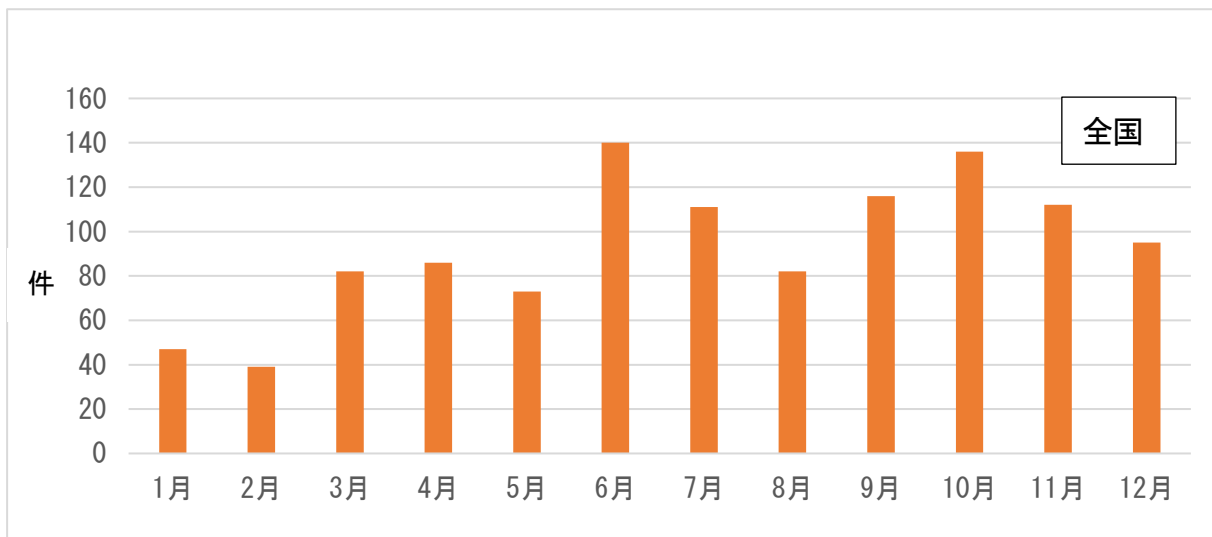
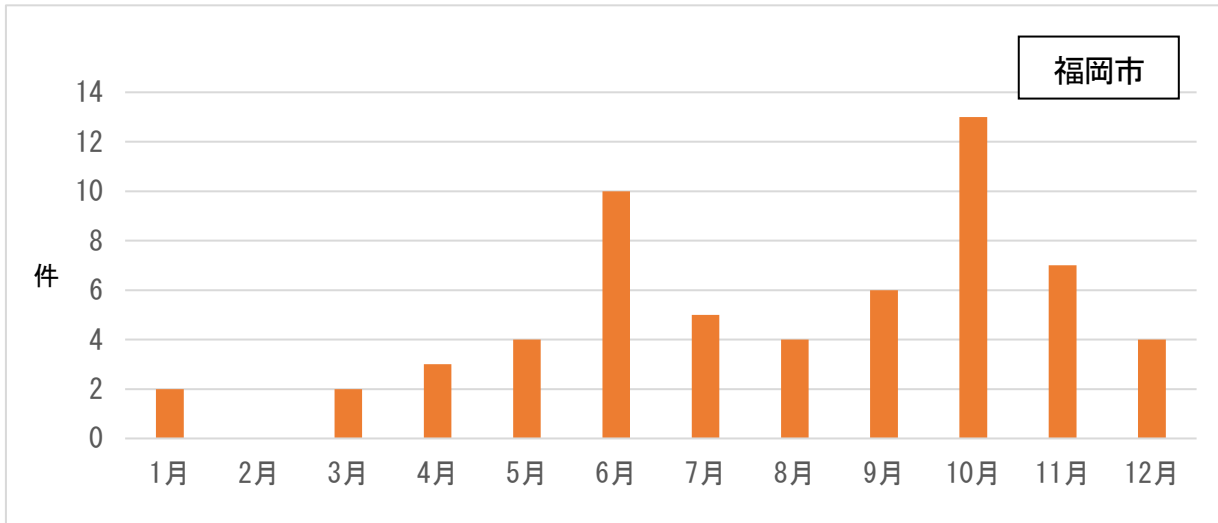


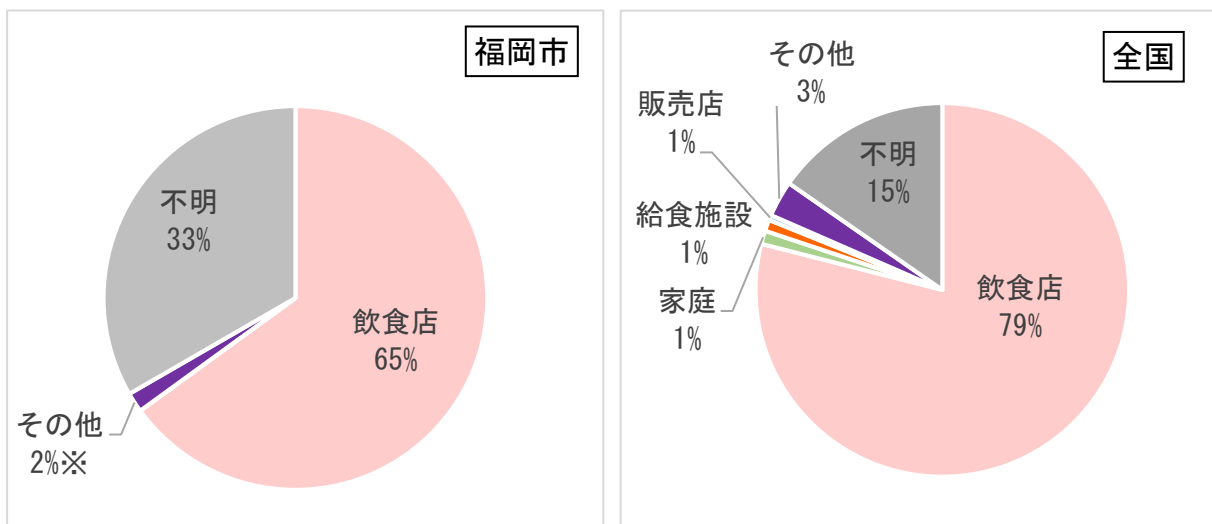
カンピロバクター食中毒対策について

1 食中毒の発生状況（病因物質：カンピロバクター）

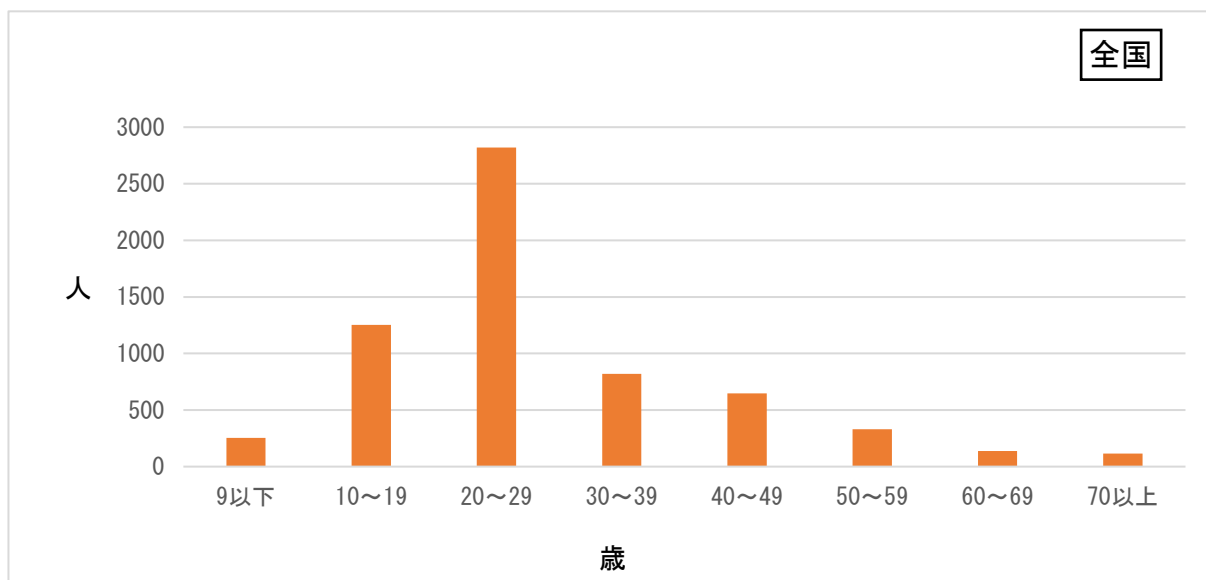
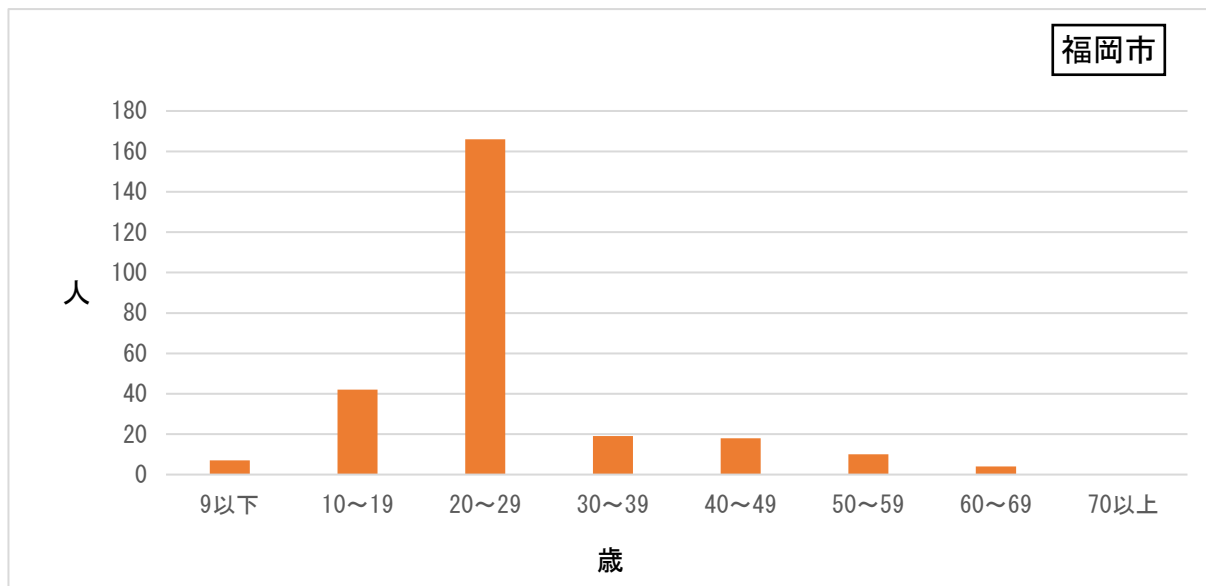
①月別発生状況（H30～R4）



②原因施設別発生状況（H30～R4）



③年齢層別発生状況（H30～R4）



2 令和5年度の対策

- (1) 監視指導
- ① 鳥刺しとレア焼きを提供する施設の実態把握（再調査）
 - ② 鳥刺し等を提供している事業者への立入検査による個別指導（年1回以上）
 - ③ 鶏肉を取り扱う食肉販売事業者への表示等に関するチラシの配付
- (2) 啓発
- ① 若年層対象：市内大学等と連携したパンフレットの配布等
 - ② 全年齢層：ホームページにチラシ掲載（外国語含む）、広報物への記事掲載
LINEによる啓発
- (3) 実態調査
- 内容：市販鶏肉におけるカンピロバクター汚染率の季節変動調査
- 時期：令和4年12月～令和5年11月（1年間）
- 検体数：年間216検体
- 内訳）もも：108検体（毎月9検体）
 - レバー：108検体（毎月9検体）